



2018年3月期
決算説明会

2018年4月27日
株式会社トーメンデバイス

本資料に掲載されている株式会社トームンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確定の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

2017年度 決算概況

2018年度 見通し

中期経営目標の進捗

2017年度トピック



大幅な増収増益、売上高と配当額は過去最高

売上高
1,975億円

配当額
80円

ROE
6.4%

2017年度実績 (対前期比)



- DRAM価格値上がり
- 中国スマートフォン向けにCMOSイメージセンサー、MCPが共に増収
- テレビ向け液晶パネルの売上増
- テレビバックライト用LED減収

(百万円)	2016年度実績		2017年度実績		対前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	156,677	100.0%	197,569	100.0%	40,891	26.1%
メモリー	82,917	52.9%	109,292	55.3%	26,376	31.8%
システムLSI	28,282	18.1%	41,048	20.8%	12,766	45.1%
液晶パネル	28,012	17.9%	33,032	16.7%	5,020	17.9%
その他	17,466	11.1%	14,197	7.2%	3,270	18.7%
営業利益	1,252	0.8%	2,598	1.3%	1,346	107.5%
経常利益	1,690	1.1%	2,428	1.2%	738	43.7%
純利益	1,230	0.8%	1,741	0.9%	511	41.6%

2017年度実績(対予想比)



- DRAM価格が想定より、高値を維持
- 中国スマートフォン需要の一服感により、CMOSイメージセンサーの売上が若干落ち込む一方、高容量化の影響を受け、MCP中心にメモリーは増収
- 価格下落も影響し、テレビ向け液晶パネルは減収

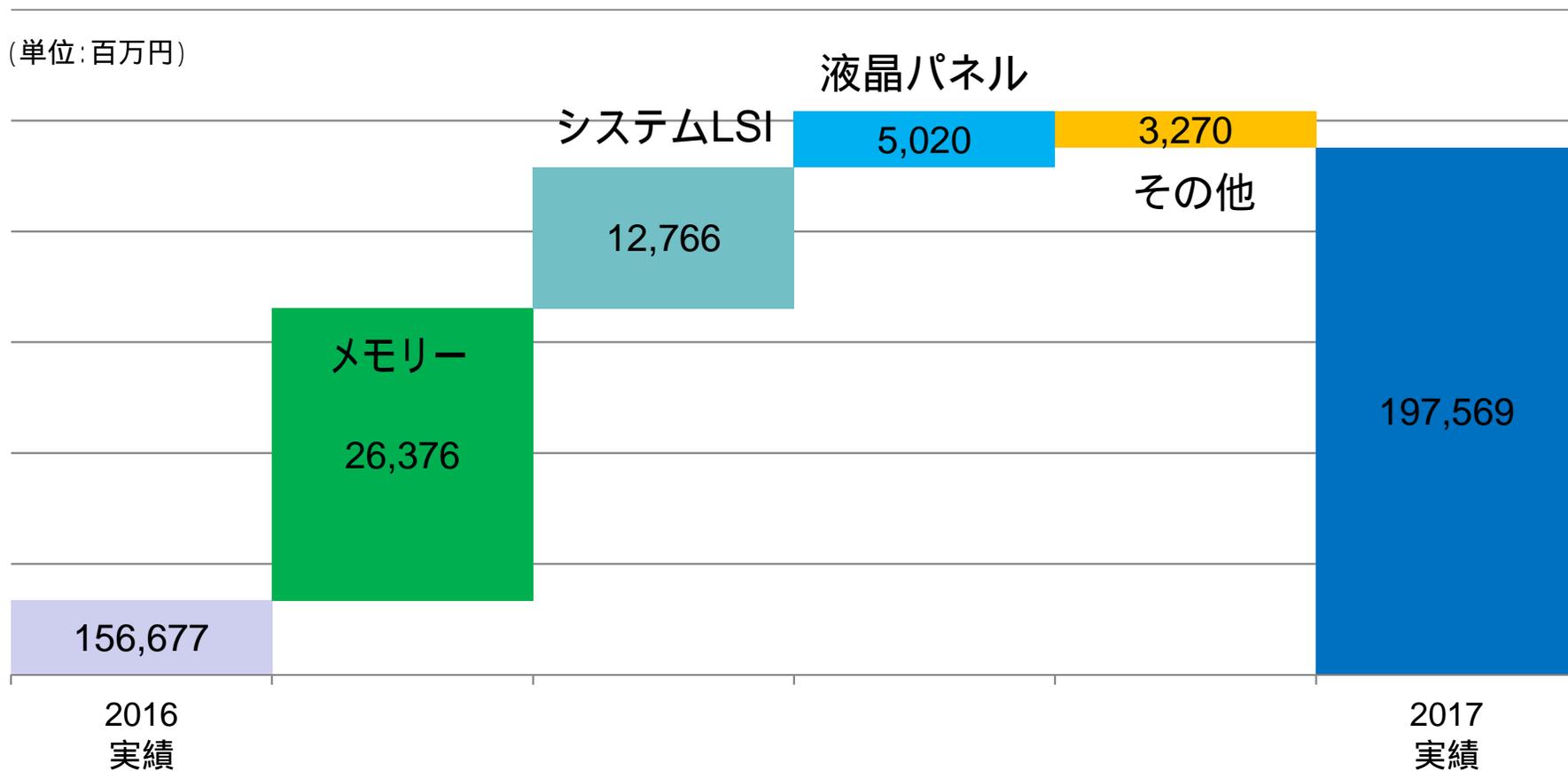
(百万円)	2017年度予想		2017年度実績		対予想比	
	予想	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	190,000	100.0%	197,569	100.0%	7,569	4.0%
メモリー	94,900	50.0%	109,292	55.3%	14,392	15.2%
システムLSI	46,800	24.6%	41,048	20.8%	5,752	12.3%
液晶パネル	35,600	18.7%	33,032	16.7%	2,568	7.2%
その他	12,700	6.7%	14,197	7.2%	1,497	11.8%
営業利益	2,300	1.2%	2,598	1.3%	298	13.0%
経常利益	2,000	1.1%	2,428	1.2%	428	21.4%
純利益	1,500	0.8%	1,741	0.9%	241	16.1%

2017年度予想値は2017年10月26日公表のもの

売上高増減分析(対前期比:商品別)



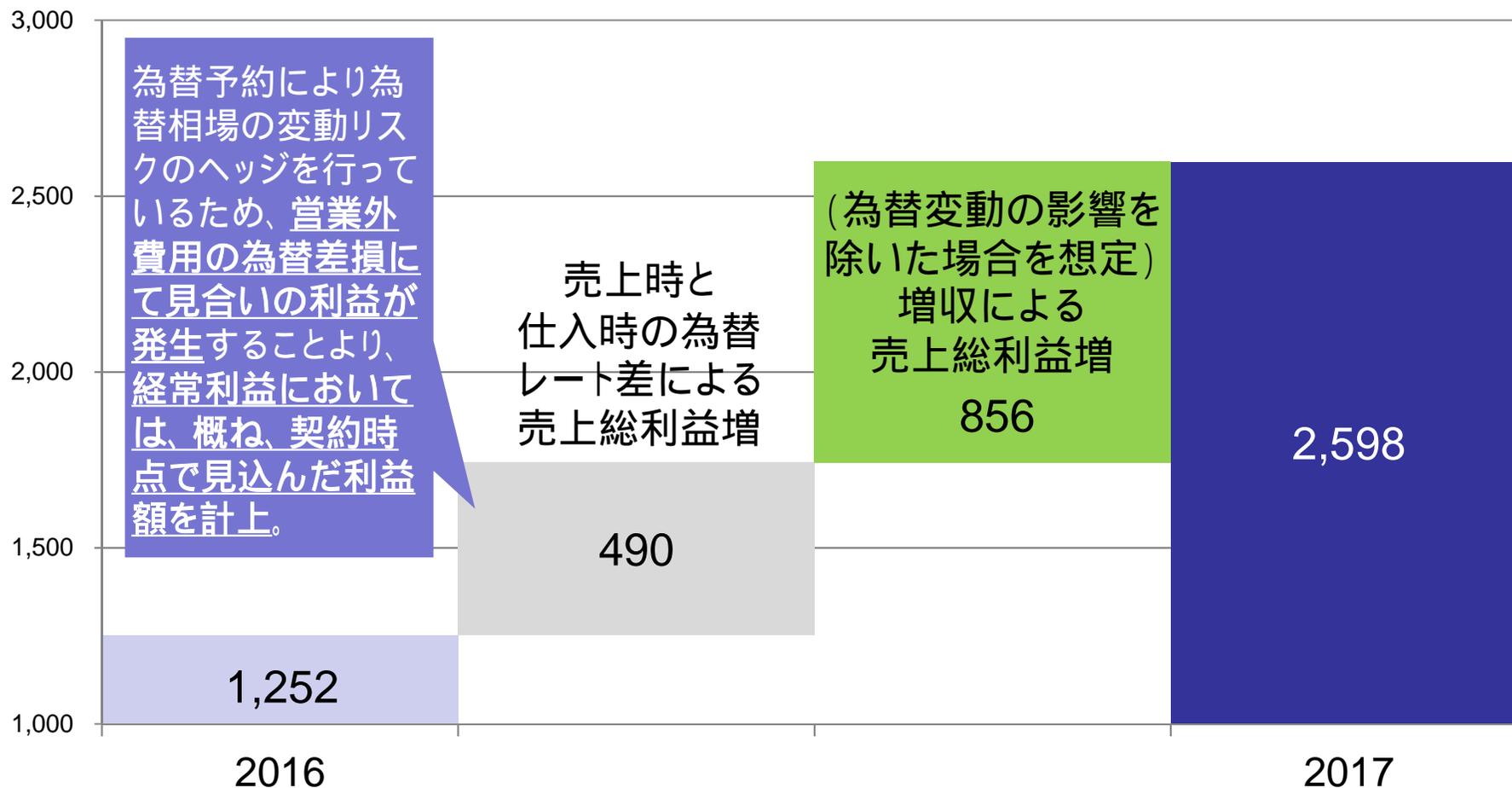
液晶テレビバックライト用LEDが
減収となるが、メモリー中心に増収



営業利益増減要因

為替変動の影響は小さく、
増収により、営業利益は増益に

(単位: 百万円)

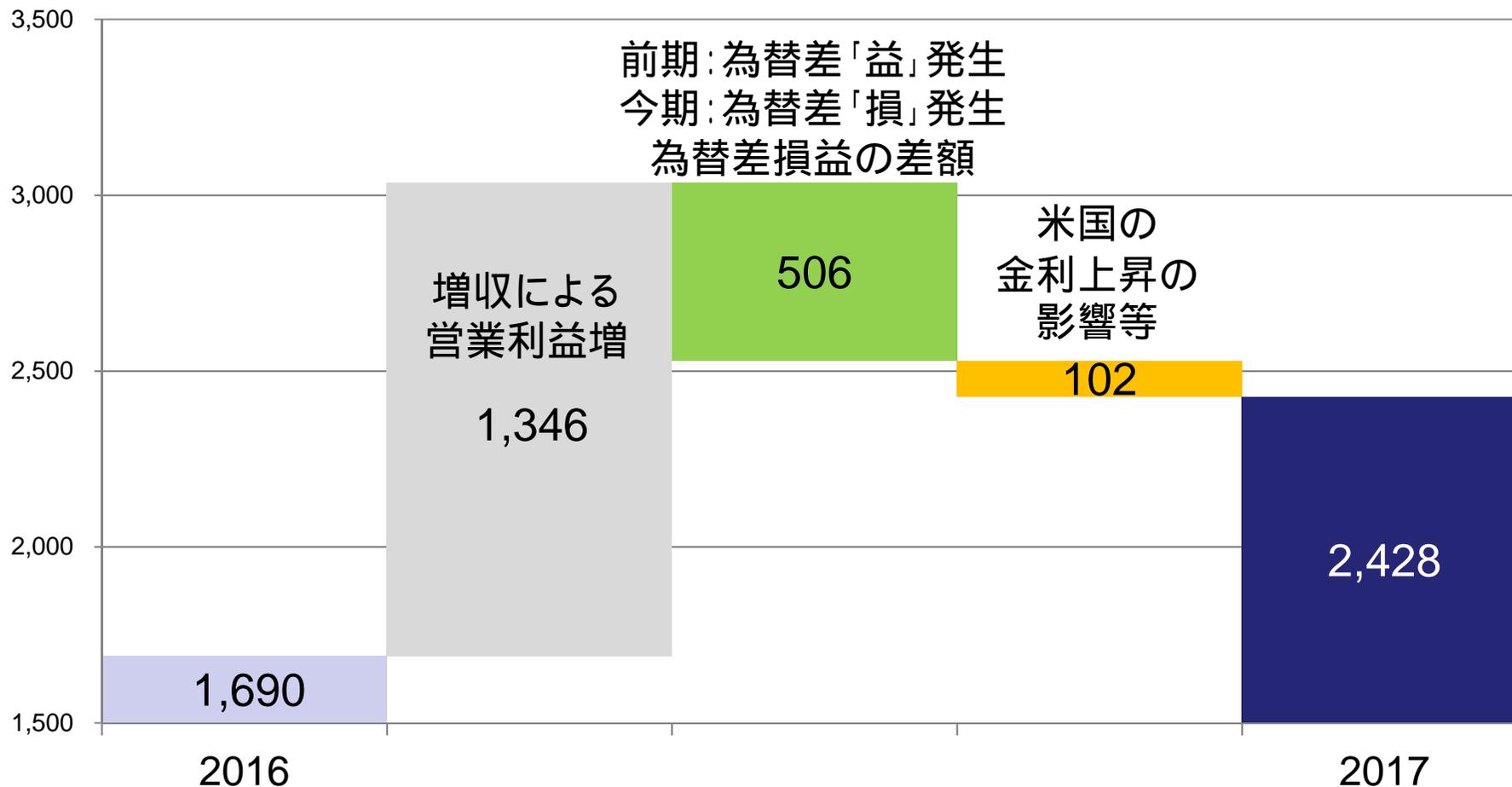


経常利益増減要因



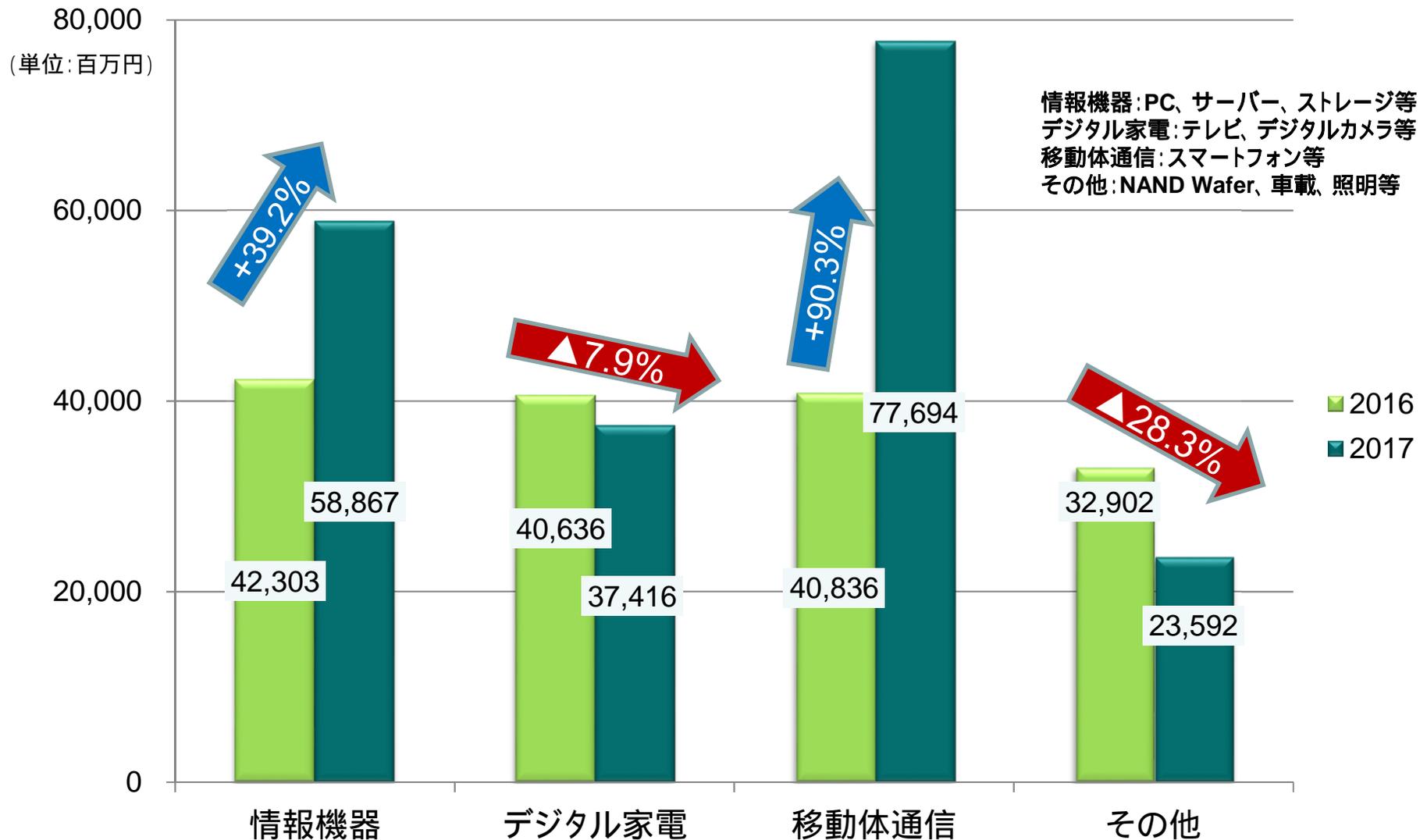
営業利益同様、増収に伴い、経常利益も増益に

(単位:百万円)



用途別 売上高推移

スマートフォンビジネスが大幅に伸長



用途別売上高増減要因

情報機器 **+39.2%**

- DRAM価格が高値で推移
- 中国でPC、国内でサーバー・ストレージ向けにメモリーを拡販

デジタル家電 **7.9%**

- 液晶テレビバックライト用LED減収
- 液晶テレビ用ディスプレイドライバーICは販売苦戦

移動体通信 **+90.3%**

- 中国スマートフォン向けCMOSイメージセンサの売上伸長
- 高容量化により、中国スマートフォン向けにメモリーを拡販

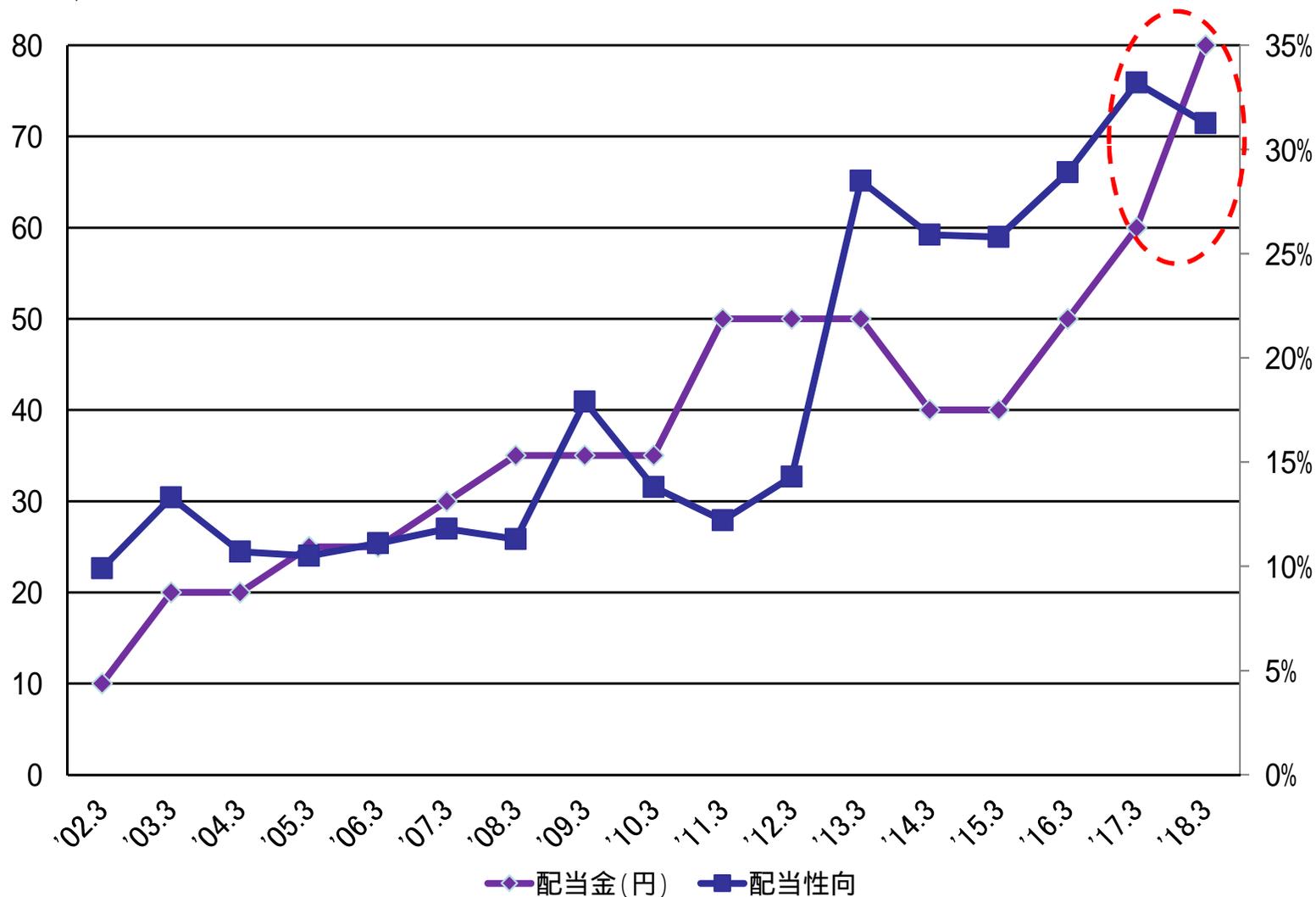
その他 **28.3%**

- NAND価格の値上がりによる供給問題 中国でNAND Waferの物量確保が困難に

配当推移

前期比で20円の増配。過去最高の配当額

(単位:円)



2017年度 決算概況

2018年度 見通し

中期経営目標の進捗

2018年度計画



サーバー・ストレージ、データセンター向けメモリーの拡販継続
中国市場でNAND FLASHを拡販。想定為替レートは1\$ = 105円

(百万円)	2017年度実績		2018年度計画		対2017年度実績比	
	実績	構成比	計画	構成比	増減額	増減率
売上高	197,569	100.0%	205,000	100.0%	7,430	3.8%
メモリー	109,292	55.3%	118,300	57.7%	9,007	8.2%
システムLSI	41,048	20.8%	38,800	18.9%	2,248	5.5%
液晶パネル	33,032	16.7%	34,300	16.8%	1,268	3.8%
その他	14,197	7.2%	13,600	6.6%	597	4.2%
営業利益	2,598	1.3%	2,620	1.3%	21	0.8%
経常利益	2,428	1.2%	2,470	1.2%	41	1.7%
純利益	1,741	0.9%	1,760	0.9%	18	1.1%
配当金	80円	-	80円	-	-	-
配当性向	31.2%	-	30.9%	-	-	-

Positive

- サーバー、ストレージ、データセンター向けメモリー需要は今後も拡大
- データセンター、PCのSSD採用増
- 自動車の電動化・電子化進む

Negative

- 国際情勢の不安定化、保護主義の台頭
- 先進国中心に、スマートフォン需要(特にハイエンド機種)一段落化
- パネル需給バランス崩れる

国内市場

- サーバー・ストレージ向けメモリー（特にフラッシュ）の拡販
- 車載ビジネスの種まき継続

中国市場

- NAND FLASH拡販
- 車載ビジネスを本格的に開始

2018年度の商品別取り組み事項

メモリー

- サーバー・ストレージ、データセンター向けメモリー拡販継続
- 中国市場でNAND FLASHの拡販

システムLSI

- 中国スマートフォン向けCMOSイメージセンサの増収を目指す

液晶デバイス

- 国内市場が厳しい中、中国市場で、テレビ等へのデザインインに注力

その他

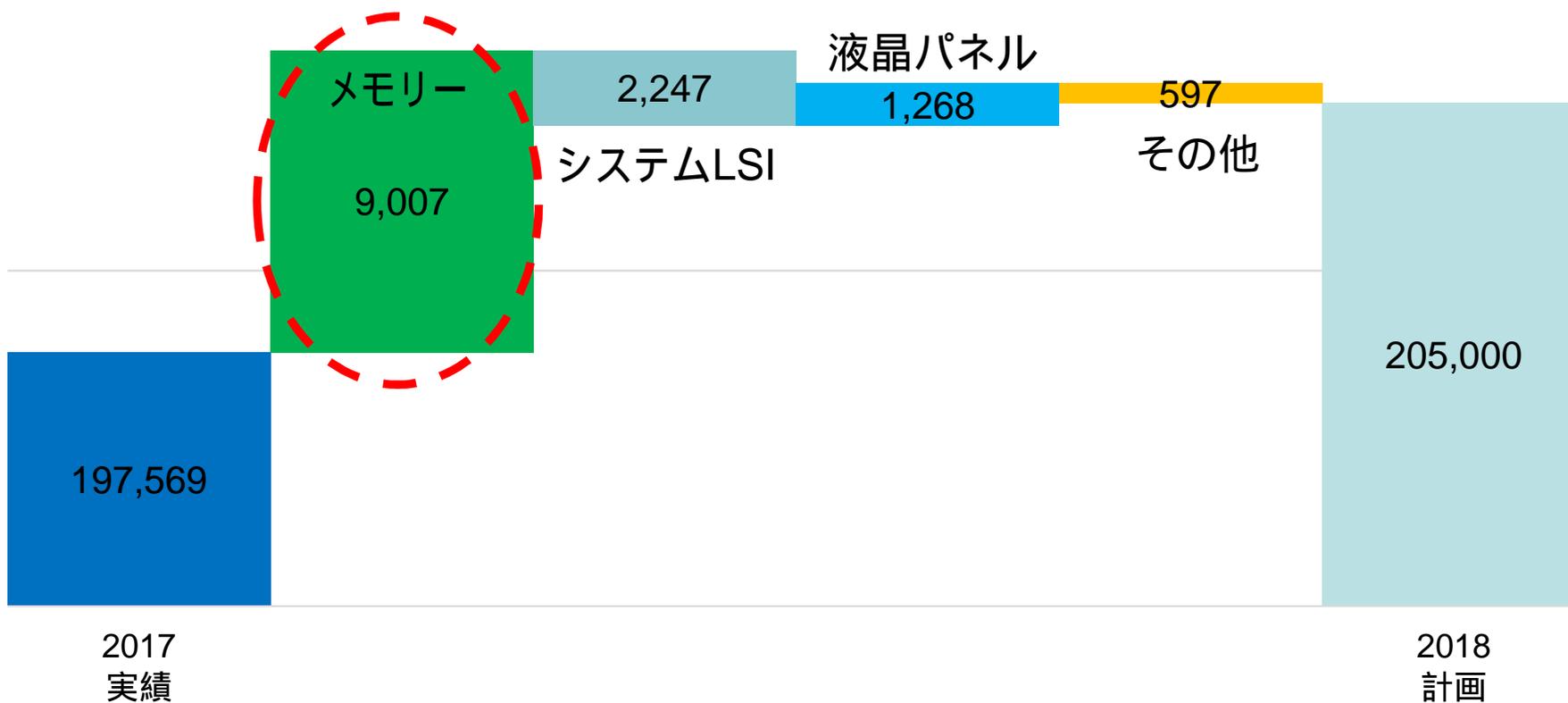
- 設備等の新ビジネス(商材)の拡大

売上高増減分析(対2017実績比:商品別)



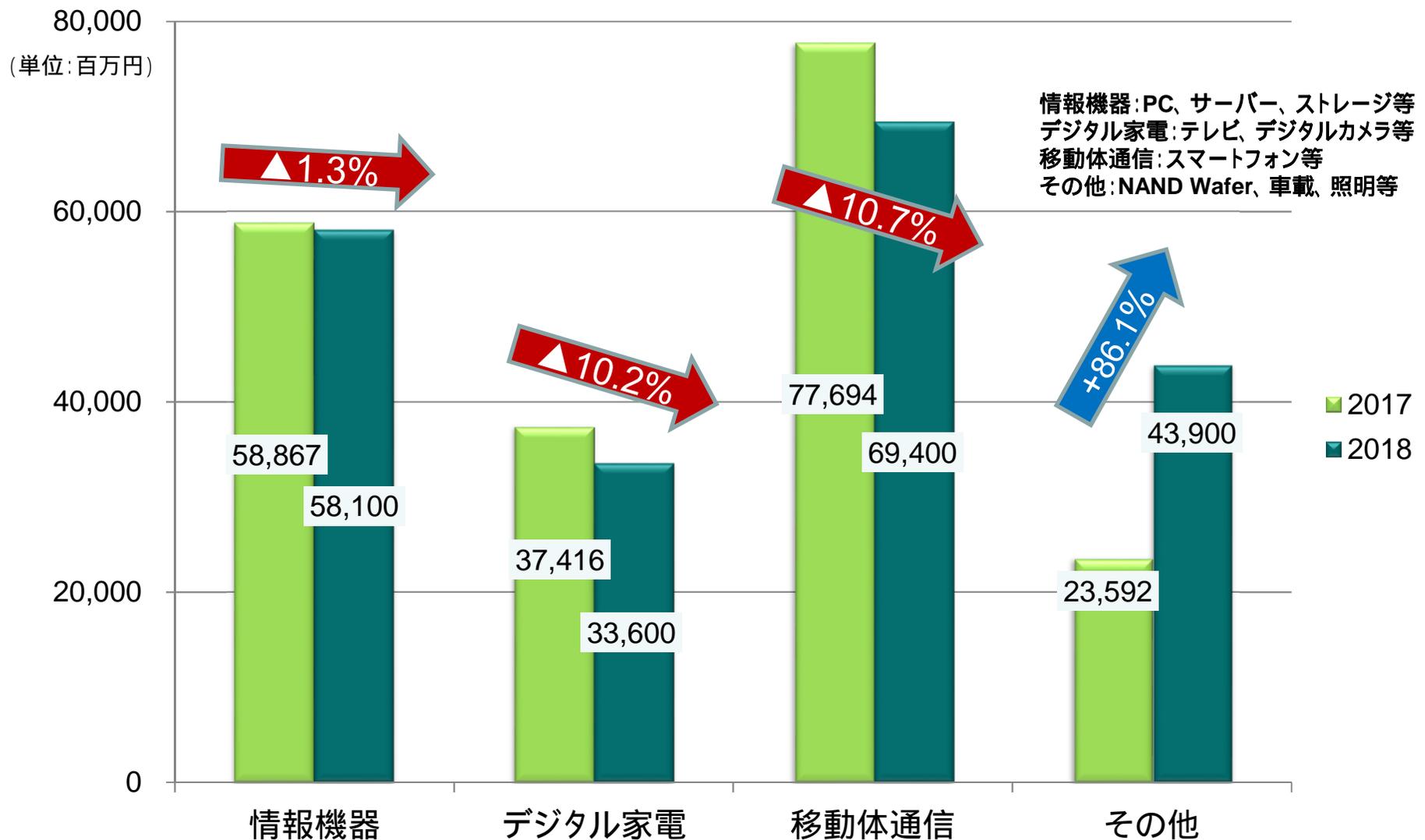
サーバー・ストレージ、データセンター向けにメモリーの拡販
供給問題を解決し、新たに中国市場でNANDの売上を伸ばす

(単位:百万円)



用途別 売上高推移

NAND FLASHの供給問題解消へ



用途別売上高増減要因

情報機器 1.3%

- PC需要の回復の兆し見えず
- サーバー・ストレージ向けにメモリーを拡販

デジタル家電 10.2%

- テレビ向け苦戦→液晶テレビバックライト用LED、液晶テレビ用ディスプレイドライバーICは共に厳しいと予想

移動体通信 10.7%

- 中国スマートフォン向けCMOSイメージセンサの拡販継続
- 一方、ハイエンド機種 of 充足感から、メモリービジネスは苦戦

その他 +86.1%

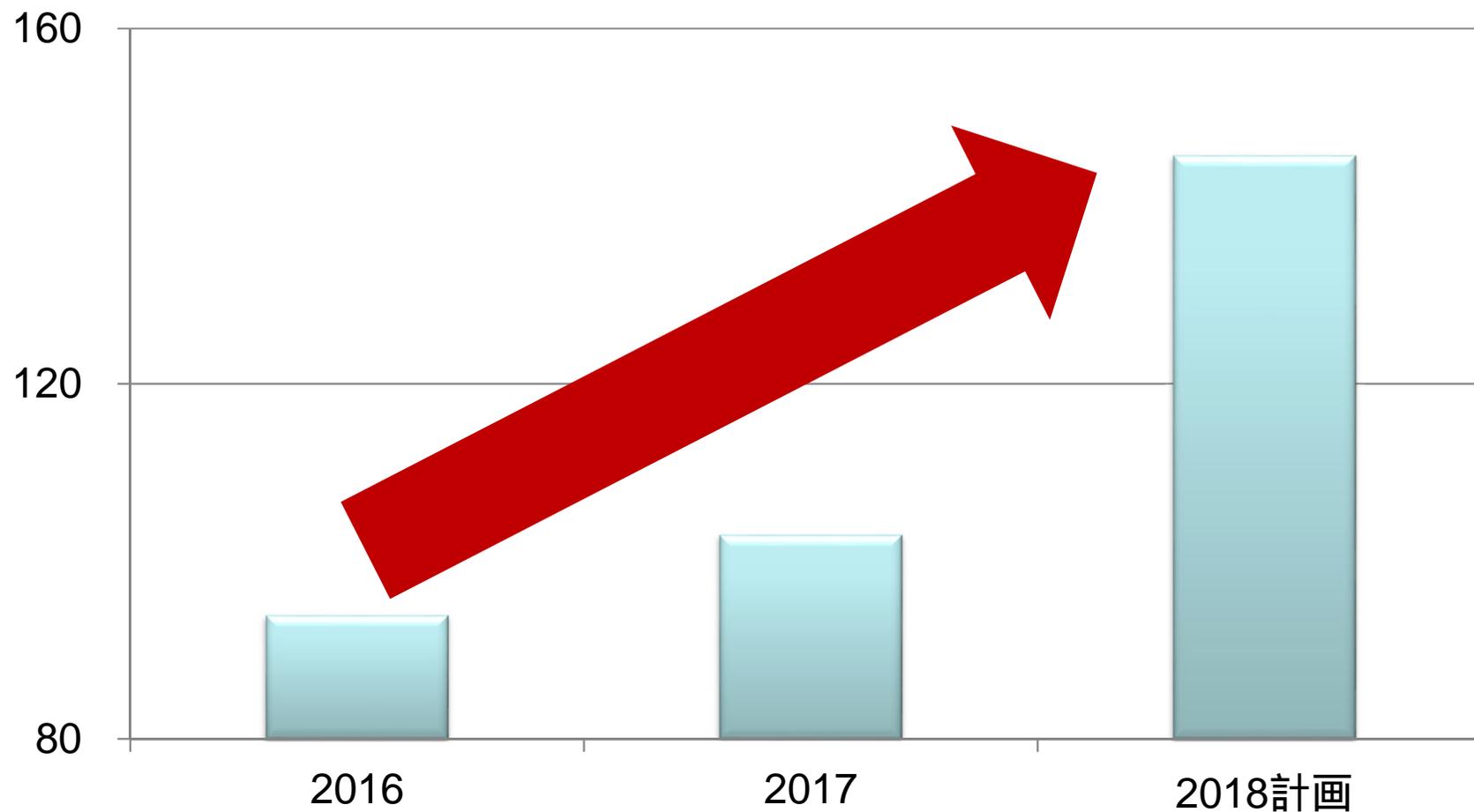
- NAND FLASH供給問題解決 中国でUSBメモリー向けビジネスを再び拡大

当社フラッシュストレージビジネス計画



サーバー・ストレージ、データセンター
向け中心にNAND FLASH、SSDを拡販

(単位:億円)



2017年度 決算概況

2018年度 見通し

中期経営目標の進捗

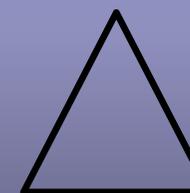
2020年度までの達成目標

連結売上高2,000億円



- 2017年度1,975億円(達成率約99%)
- 2018年度に前倒しで達成予定(2,050億円)

ROE 8%



- 2016年度4.8%→2017年度6.4%へ改善
- 更なる業績拡大と経営効率化

目標達成、継続・発展に向けた施策



1. 海外ビジネス
拡大

2. サーバー・
ストレージビジネス
の推進

3. 既存ビジネスの
強化

4. 車載ビジネス
展開

1. 海外ビジネス
拡大

2. サーバー・
ストレージビジネス
の推進

3. 既存ビジネスの
強化

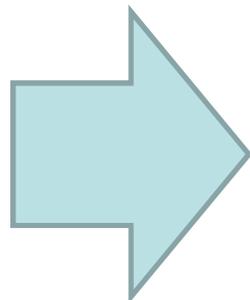
4. 車載ビジネス
展開

シンガポールに販売会社を新設

〔会社概要〕

名称	ATMD Electronics (Singapore) Pte. Ltd.
所在地	600 North Bridge Road, #16-05 Parkview Square, Singapore
代表者	小井戸 信夫(当社 専務取締役)
事業内容	東南アジアおよび南アジアにおける半導体および電子部品等の販売
資本金	100万US\$
出資比率	ATMD (HONGKONG) LIMITED 100%(当社孫会社に)

現シンガポール支店は同社へ統合予定



ビジネスエリアを拡げ、急成長が見込まれるインド市場を開拓

デジタル革命に乗り、業績拡大を目指す

データセンター (DC)市場

- DC市場は、日本、中国に続いて、アジア第3位の規模
- 電子政府化計画により、同国のDCプロバイダは能力拡大

スマートフォン 市場

- 中国に続くスマートフォン大国へと成長
- 今後、4Gの整備が進み、まだまだ伸びしろあり

1. 海外ビジネス
拡大

2. サーバー・
ストレージビジネス
の推進

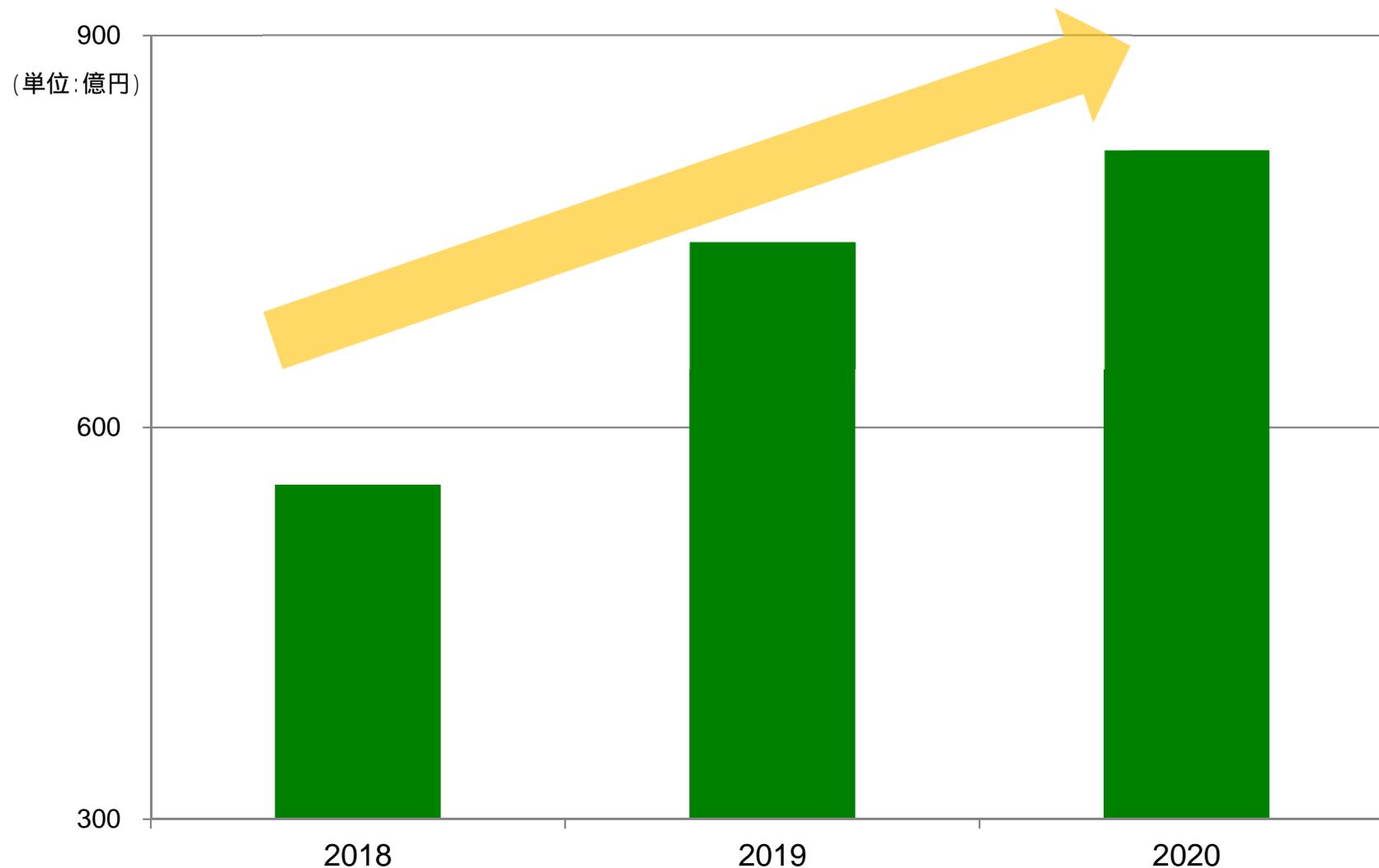
3. 既存ビジネスの
強化

4. 車載ビジネス
展開

サーバー、ストレージ向け売上計画



競争力の高いメモリー (DRAM、SSD) を武器に売上を伸ばす



1. 海外ビジネス
拡大

2. サーバー・
ストレージビジネス
の推進

3. 既存ビジネスの
強化

4. 車載ビジネス
展開

メモリー営業推進チーム新設

メモリー製品の販売強化のため、社長直轄の「メモリー営業推進チーム」を設置

- メンバーは、各営業部門のメモリー関連営業担当者
- 部署の垣根を越えて情報共有を行い、市場開拓を推進

1. 海外ビジネス
拡大

2. サーバー・
ストレージビジネス
の推進

3. 既存ビジネスの
強化

4. 車載ビジネス
展開

オートモーティブ営業推進チーム新設

車載向けビジネスの販売強化のため、社長直轄の「オートモーティブ営業推進チーム」を設置

- メンバーは、各営業部門の車載関連営業担当者
- 車載ビジネスで豊富な実績のある豊田通商社から人員を補強
- 部署の垣根を越えて情報共有を行い、市場開拓を推進

車載ビジネスの取り組み状況



(カーナビ向け)メモリ以外の商材を提案、種まき中

LED

インテリア、照明
向けにLEDを
提案

有機EL

車載向け有機EL
のプロモーション
強化

車載関係

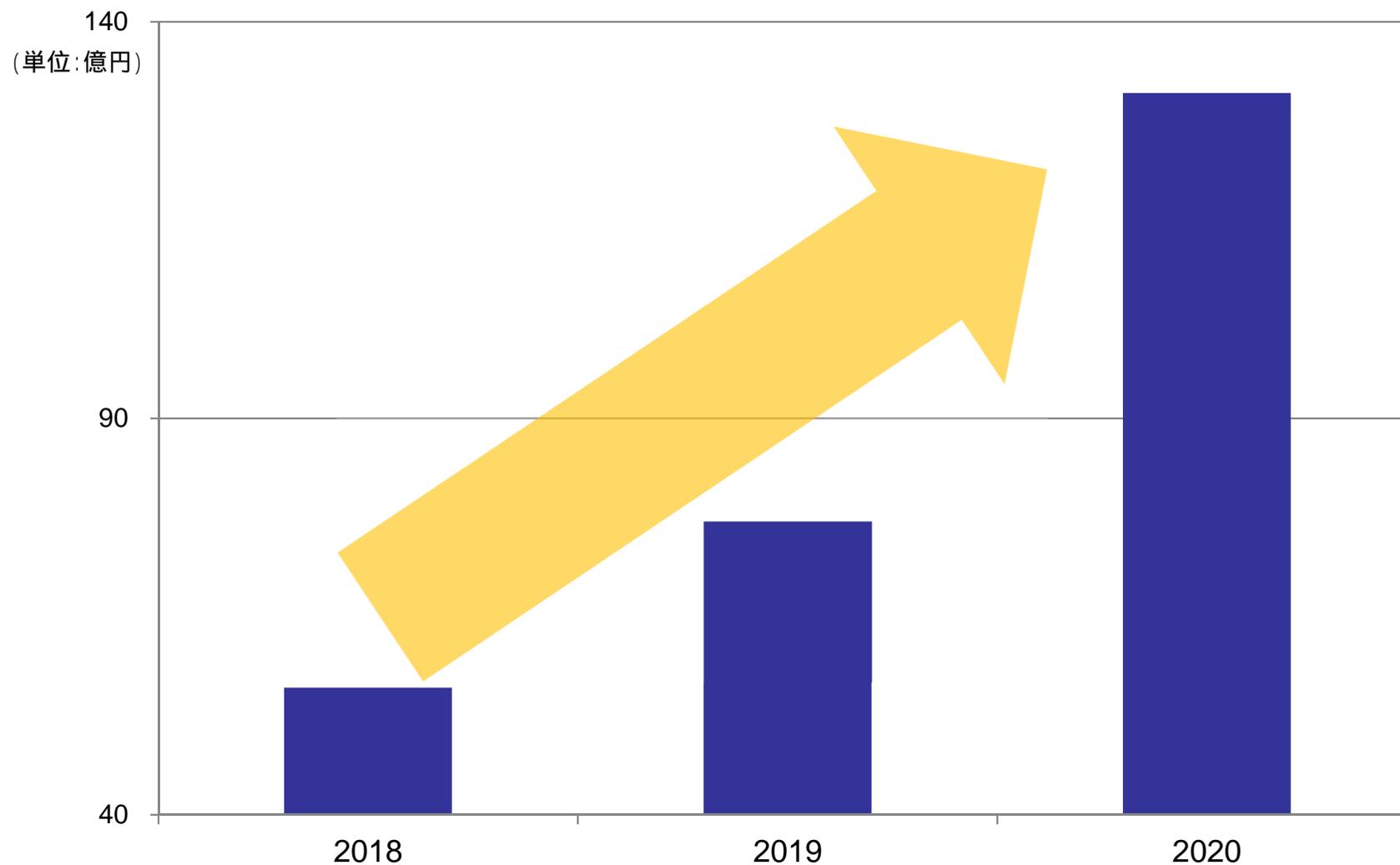
メモリー

eMMC・DRAMの
デザインイン

サンプル出荷開始
採用の機会を伺う

バッテリー

車載用商材を拡充し、市場を開拓



ご清聴ありがとうございました

